

➤ 観光周遊の促進に向けた取組

- 外国人観光客の地方誘客を図るための取組として、道内では2ルートの「広域観光周遊ルート」が認定されている。
- ルート毎に、各地域の観光地の周遊性向上に向け、受入体制の整備や交通アクセスの円滑化、滞在コンテンツの充実といった取組が進められている。

■北海道の広域観光周遊ルート(令和2年3月31日時点)

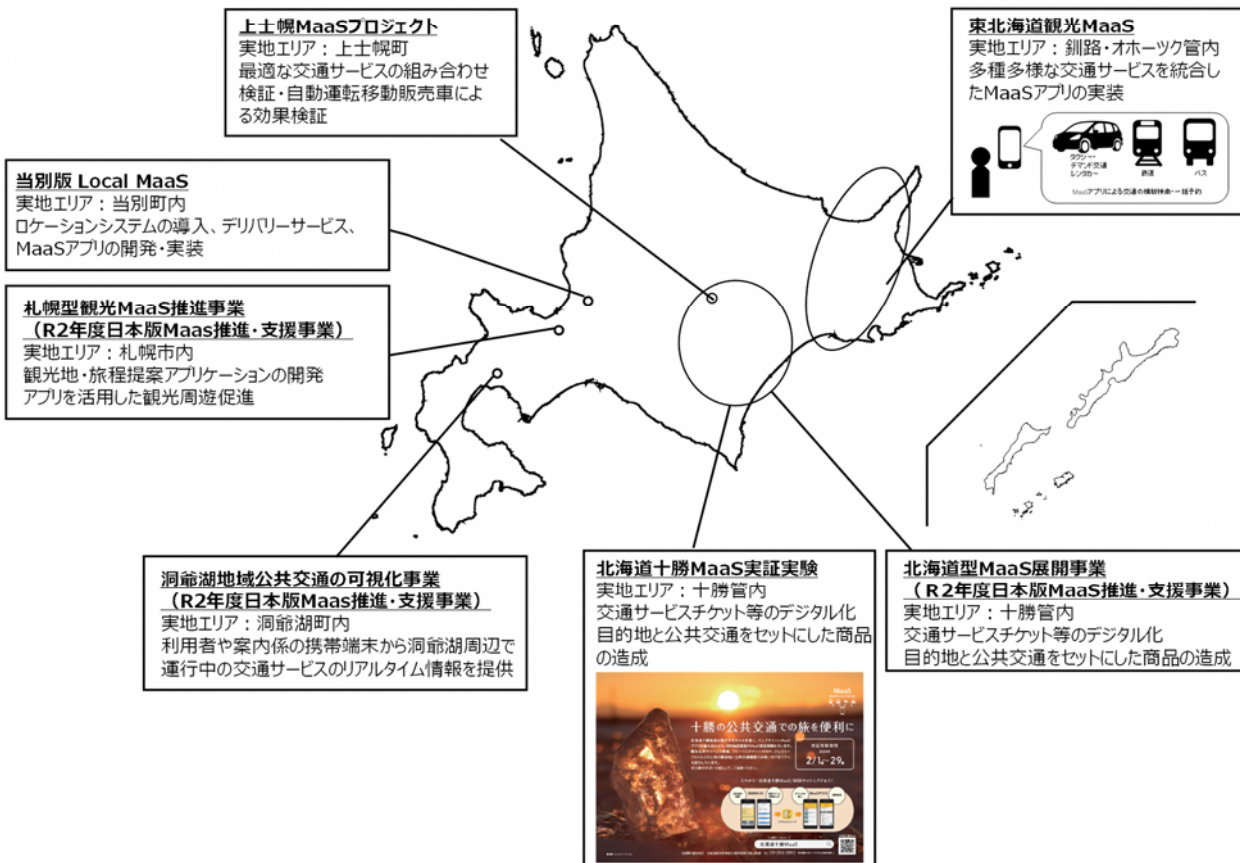


➤ 地域のモビリティ向上に向けた取組(MaaS(マース):Mobility as a service)

- 十勝をモデル地域として、交通事業者や経済団体、行政等を構成員とする「シームレス交通戦略推進会議」を設置し、駅やバスターミナルにおける案内看板の改善やダイヤ接続の見直しなど、利便性向上に資する取組を進めるとともに、観光と生活両面における MaaS 実証実験を行っている。
- このほか、札幌や洞爺湖町などの市町村や釧路・オホーツク管内において、実証実験が行なわれている。

■道内で行われている MaaS の実証実験(令和元年度～)

実験名称	実験地域	実施年度	実施主体
北海道十勝MaaS実証実験	十勝管内	R1	北海道総合政策部
東北海道観光MaaS	釧路・オホーツク管内	R1	WILLER株式会社
上士幌MaaS	上士幌町	R1	上士幌町
北海道型MaaS展開事業	十勝管内	R2	北海道総合政策部
洞爺湖地域公共交通の可視化事業	洞爺湖町	R2	一社)洞爺湖温泉観光協会
札幌型観光MaaS推進事業	札幌市	R2	一社)さっぽろイノベーションラボ
当別版Local MaaS	当別町	R2	当別町



➤ 地域のモビリティ向上に向けた取組(自動運転)

- 道内における経済の活性化や社会課題の解決への貢献を目指し、道では、産学官が連携した「北海道自動車安全技術検討会議」を設置し、自動運転に関する研究開発拠点の誘致や積雪寒冷地における自動運転システムの検討、自動運転に関連する分野への道内企業の参入促進に取り組んでいる。
- これまで、地方部における移動手段の確保や物流のドライバー不足対策などを目的とし、札幌市周辺や十勝・オホーツク管内などで、自動運転の試験研究が行われている。

■ 自動運転の実用化に向けた道の推進体制

自動運転の実用化に向けた北海道のポテンシャル

- ・全国最多28のテストコースが集積
- ・理系大学をはじめとした研究機関やIT企業が集積
- ・広大な土地や寒冷な気候を活かし、多様な実証実験モードの提供が可能

北海道自動車安全技術検討会議
● 自動運転に関するワンストップ相談窓口を設置

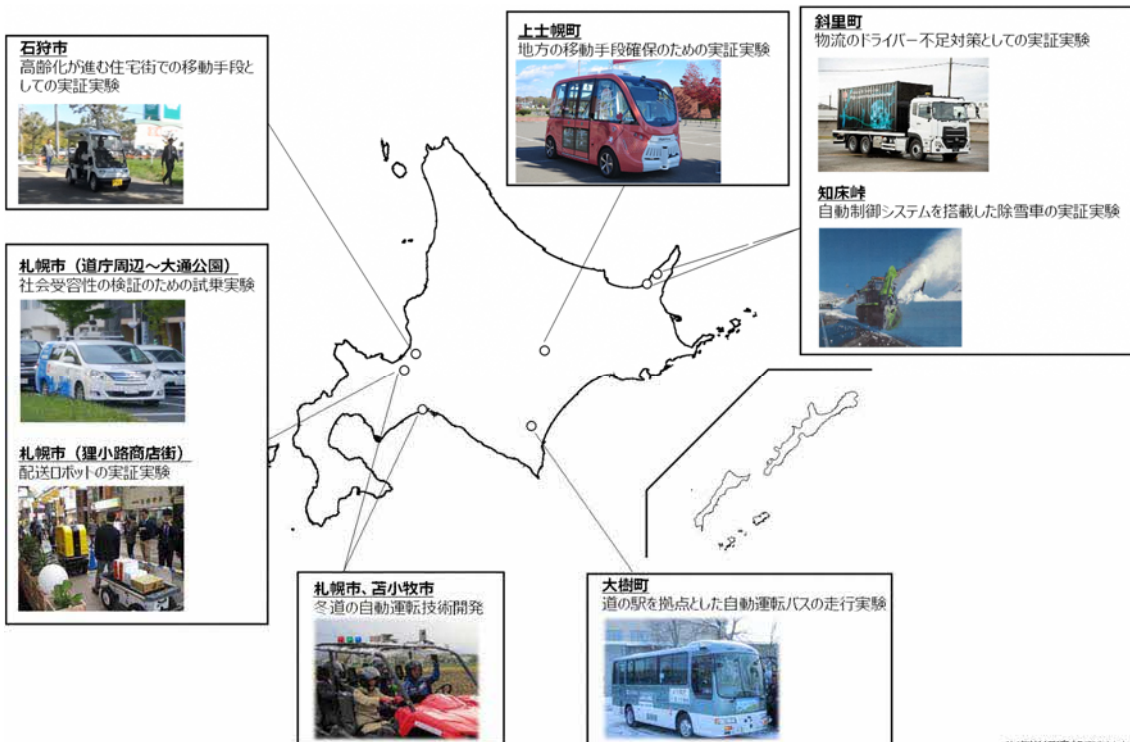
自動運転技術研究開発拠点の誘致

- ・車両性能試験等の誘致
- ・開発拠点の集積促進

自動運転の社会実装に向けた検討

- ・自動運転を活かした新たな移動サービスの創出
- ・新たな移動サービスへの道内IT企業や交通事業者の参入促進

■ 道内における自動運転の試験研究の実例



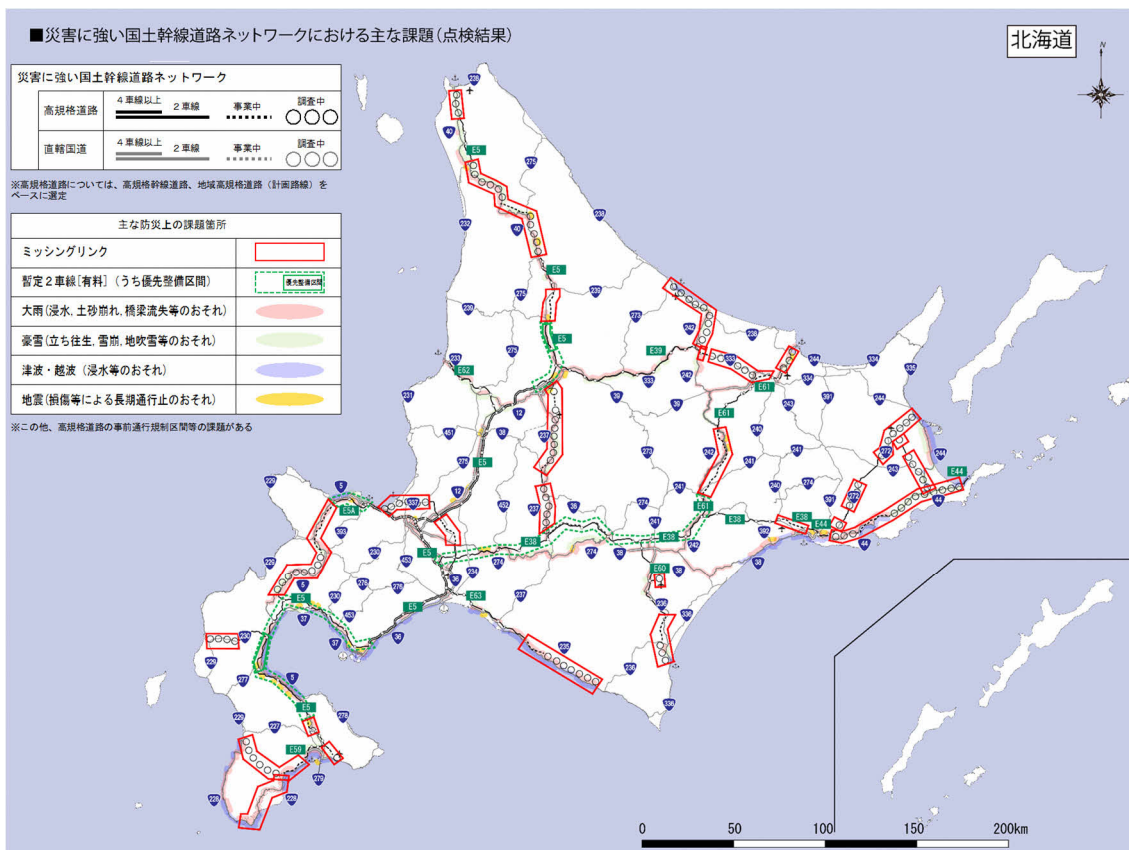
北海道経済部資料をもとに作成

(4) 耐災害性の強化

▶ 北海道内の道路ネットワークの脆弱性

- 北海道開発局では、令和2年度に道内の高規格道路と並行する直轄国道を組み合わせた国土幹線道路ネットワークを選定し、このネットワークにおける防災上の課題箇所の点検を実施した。
- 点検により、高規格道路のミッシングリンクや暫定2車線区間、大雨による土砂災害や豪雪による雪崩や地吹雪等のおそれがある区間などの課題を把握。
- また、道内の道路ネットワークには、異常気象時通行規制区間や特殊通行規制区間が数多く存在しているほか、地吹雪や雪崩などの雪害、豪雪に伴う土砂災害等による通行規制が頻発するなどの課題を抱えている。

■ 災害に強い国土幹線道路ネットワークにおける主な防災上の課題(点検結果)



出典：「防災・減災、国土強靱化に向けた道路ネットワークの点検結果について(北海道開発局)」を基に作成

■ 道内の通行規制区間数・延長

道路種別	規制区間種別	区間数	延長(km)
国道	事前通行規制区間	18	156
	特殊通行規制区間	14	157
道道	異常気象時通行規制区間	145	1,152
	特殊通行規制区間	65	537
合計		242	2,001

出典：国道・北海道開発局資料、道道・北海道建設部調べ